

# キューバを平和に暮らさせてほしい

ブルーノ・ロドリゲス・パリージャ（キューバ外相）

2026 年 5 月 26 日

以下は同外相による、安全保障理事会公開討論「国連憲章の目的と原則の擁護および国連を中心とした国際システムの強化」における発言全文。



## 要旨

パレスチナへのジェノサイドやイランへの侵略、米国の対キューバ政策に触れずして国連の役割は語れない。米国によるラウル・カストロ訴追は政治的動機に基づく欺瞞であり、石油・エネルギー封鎖は戦争行為かつジェノサイドで国民の生命を脅かしている。軍事侵略は双方の若者を死に追いやる。米国市民に真実を求めるよう訴える。キューバは対話の意思があり、国際社会には封鎖と武力行使に反対し連帯を求める。国連はキューバへの脅威に責任を果たすよう要求する。侵略があればキューバは最後まで戦う。

## 本文

議長、各国の常駐代表各位、

我々は、国際的な平和と安全の擁護、国際法の遵守、国連の維持・強化・適切な改革、とりわけ安全保障理事会の民主化・透明性・効率化および総会の権限強化、

ならびに主権の平等に基づく公正かつ民主的な多国間国際秩序の構築において、中華人民共和国が発揮するリーダーシップを高く評価する。

その証左となるのが、真の多国間協力を通じて現在の課題に立ち向かうべく、習近平国家主席が推進し、我々が支持するグローバルなイニシアチブである。本公開討論会の開催もまた、そのことを如実に示している。

1960年9月26日、国連総会において、フィデル・カストロ・ルス最高司令官は次のように述べた。「搾取の哲学が消え去れば、戦争の哲学も消え去るだろう！」我々は、彼の生誕100周年にあたり、これを鮮明に思い起こす。

議長殿、

パレスチナに対するジェノサイドや、イラン・イスラム共和国に対する帝国主義的侵略、中東での戦争に言及することなく、いかにして国連の中心的役割の擁護、平和と開発の促進、国際法および国際関係の基本規範に基づく国際秩序の維持について語るができるだろうか。それらは、強者が弱者に圧力をかける新たな紛争を回避するためのものである。

米国政府は、事実上、キューバ共和国に対して、国際平和と安全を損ない、国際法および国際人道法に違反する立場にある。

キューバ革命の指導者であるラウル・カストロ・ルス革命軍将軍に対する刑事訴追は、道義的に卑劣な行為であり、法的には、米国裁判所の管轄権の濫用、キューバ領空および領海内で発生した航空機撃墜の現場の改ざん、彼らが頻繁に米国法を違反して実行したテロリスト的かつ違法な任務、同国当局による不処罰と共謀、そして国家の正当防衛権を無視したことによるものである。

これは政治的な動機に基づく、欺瞞的な決定であり、事件から30年を経た今、米国および外国の市民を欺き、彼らが「体制転換」あるいは現在婉曲的に呼ばれる「国家建設」を目的とした対キューバ軍事冒険を支持するよう仕向けるという卑劣な意図によるものである。

米国がキューバに対して課している石油・エネルギー封鎖は、その効果において海上封鎖に等しい。これは戦争行為であり、ジェノサイドであり、キューバ国民をその尊厳と生存を脅かす状況に追い込み、今日、死をもたらす残酷かつ無差別な「集団的懲罰」を意味している。これは、出生 1000 人当たりの乳児死亡率が 4.0 から 9.2 へと倍増したこと、あるいはがんを患う子供たちの生存率が 85%から 65%へと低下した事実が如実に物語っている。

軍事侵略は血の海を招くだろう。祖国と神聖な価値観、大義を守るために何千人ものキューバ人が命を落とし、また、守るべき大義も理想もないまま、帝国主義的かつ新ファシスト的な支配、略奪、征服の政策によって暴力へと引きずり込まれた米国の若者たちも命を落とすことになるだろう。

私は特に米国の市民、とりわけ若者たちに呼びかけ、そして、あなた方の人間としての価値観、平和主義的で高潔な感情に訴えかける。真実を求め、マイアミの腐敗した権力を持つエリート一派に欺かれたり操られたりしないよう願う。彼らは、戦争やエネルギー封鎖という蛮行に大多数が反対している米国国民や、この国に住むキューバ人の代表ではないのだ。

そのような軍事攻撃の命令を下した大統領、そしてそれを煽る国務長官や国防長官は、戦争犯罪人として、人道に対する罪の直接の加害者として歴史に名を残すことになるだろう。侵略や、人道的な影響という点でそれに類する非人道的な強制行為に対して、いかなる正当化も持ち出すことはできない。キューバを平和に暮らせてほしい！

60 年以上にわたり、米国政府は自らの犯罪的行為を正当化しようと、口実を作り続けてきた。

彼らは、小さくとも象徴的なキューバを、核保有超大国の国家安全保障に対する脅威であるかのように描くという荒唐無稽な主張を用いてきた。この考えは、論理や常識に反するだけでなく、完全に虚偽の主張やほのめかしに基づいている。

ミゲル・ディアス＝カネル大統領が繰り返し述べているように、キューバは脅威ではなく、また脅威になり得ない。米国政府との間には重大な相違があるものの、

キューバは米国の敵ではなく、敵になるつもりもない。キューバは米国の国民や文化と深く兄弟のような絆で結ばれている。我々は、たとえ米国政府が彼らの自由を制限しようとも、米国からの旅行者を温かくもてなすことを続ける。また、たとえ封鎖がそれを妨げようとも、競争力のあるプロジェクトを持つ米国人実業家や企業が、いかなる差別もなく我々の経済発展に参加できるよう受け入れる。

しかし今、腐敗し不道德な金権政治勢力が、わが政府の無能さや疑惑の汚職、そして「人道危機」という虚構の危険性を口実に、外国による介入を正当化しようとしている。そう冷笑的に語るのは、まさにその加害者自身である。その者は冷酷かつ悪意を持って意図的に行動し、経済力や発展段階、政治体制の如何にかかわらず、世界のどの国でも引き起こしうるような壊滅的な影響をもたらしている。

米国側の進展や善意の欠如、真剣さや一貫性の欠如にもかかわらず、我々は引き続き対話を続ける用意がある。我々の内政、政治体制、選挙への干渉なしに二国間問題を扱い、特にテロリズム、麻薬密輸、国際組織犯罪、正規かつ安全な移民、人身売買、相互経済補償などの分野において、良識ある行動と多面的な協力の道を模索する用意がある。

これは前例のない、いかなる正当性も持たない一方的な攻撃である。米国政府は、威嚇や第三国に適用される「二次的」制裁を通じて、すべての国家に対し、その意思に反してキューバに対する残虐な政策への参加を強要しようとしているが、そのようなことは決して起こらない。

私は国際社会に対し、武力によるものであれ、エネルギー封鎖や極度に強化された経済封鎖によるものであれ、これらは死と苦痛をもたらすものであり、それによって引き起こされかねない人道的惨事を防ぐために立ち上がるよう求める。

私はラテンアメリカおよびカリブ海諸国に対し、平和地帯としての地位を維持し、地域の安定を損なうような悪影響を回避するための行動をとるよう求める。

今こそ、政治的相違、イデオロギー的アプローチ、歴史的対立を超えた広範な国

際的連携により、各国の国益、国民、そしてすべての国家の主権的権限を脅かし損なう暴挙に歯止めをかけ、これを阻止すべき時である。

グローバル・サウスは、このために闘い、集団的な声と行動、そして相互協力によって、いかなる報復からも集団的に身を守るべきである。私は心から、こう訴えたい。常にすべての人々と連帯し、時には死に至るリスクや、利害関係、物質的な不足にもひるむことなく歩み続けてきたキューバに対し、今こそ連帯を示す時が来たのである。

国連の中核的役割の擁護、平和と開発の促進、そして国際の平和と安全の維持における安全保障理事会の第一義的責任、ならびに対話と政治的解決の促進への貢献について言及するにあたり、この安全保障理事会に対し、現実的に、少なくともキューバに対する軍事的脅威やエネルギー封鎖に関して、その第一義的かつ至高の任務を果たそうとする努力を求めずにはいられない。また、いかなる場合でも、国連総会に対し、キューバの状況において、諸国民から付与された広範かつ決定的な権限、そして道義的・法的・民主的な権威を断固として行使するよう促すことを強く要請するものである。

決して起こらないことを願うが、その事態に直面した際、キューバ国民が最後まで戦い抜くことは、誰にも疑う余地がない。

祖国か死か、我々は勝利する！

ご清聴に感謝する。

(Cubaminrex)